

地域課題の解決に向けた取組

地域との連携による親しまれる森林づくりに向けて

十勝西部森林管理署

【はじめに】

十勝西部森林管理署は、帯広市をはじめ十勝地方西部・南部の8市町村に広がる約14万ヘクタールの国有林を管理しており、その約6割は日高山脈襟裳十勝国立公園に指定されています。日高山脈の原生的な森林生態系や生物多様性の保全、水源かん養機能の維持など、地域の環境保全に資する森林施業を実施しています。

【国見山自然観察教育林について】

里山における森林レクリエーションの場の提供も重要な取組の一つです。帯広市に隣接する芽室町と音更町にまたがる標高116.6mの国見山自然観察教育林は、約66ヘクタールの林内に郷土樹種であるトドマツのほか、ミズナラ、カシワをはじめとする広葉樹林や、ストロブマツ、ヨーロッパアカマツ、レジノーザマツなどの外国樹種による人工林も造成されており、天然林と人工林が織りなす多様で豊かな森林景観が広がっています。また、帯広市中心部から約10kmというアクセスの良さから、ハイキングや森林浴、野鳥や野草の観察を気軽に楽しむことができるため、四季を通じて多くの利用者が訪れる身近な森林として、地域の皆さんに親しまれています。

【地域と連携した整備体制づくり】

国見山をより親しまれる森林としていくため、利用者の声を反映しながら地域と連携・協力した維持管理を進めることを目的として、平成29年

3月に「国見山自然観察教育林管理運営協議会」が発足しました。これまで、樹名板の更新や遊歩道の木製階段や手すりの改修、ウッドチップの敷設など、利用者の安全性や利便性の向上に向けた環境整備が進められたほか、地元企業による駐車場周辺の草刈りや清掃ボランティア活動も積極的に実施していただいております。利用者が気持ちよく散策を楽しめる環境づくりの一翼を担っていただいております。

また、これまで課題となっていた人工林の間伐については、協議会での協議を重ねながら、林床のかく乱を最小限に抑えるとともに、野生動植物の生育環境にも十分配慮して施業を進めてきました。その結果、鬱蒼（うっそう）としていた林内の光環境が改善され、下層の稚幼樹の生育が促進されるなど、より健全な森林へ誘導することができました。

【今後に向けて】

国見山を将来にわたり地域に親しまれる森林として維持していくため、今後も地域や関係団体との連携を深めながら、開かれた国有林づくりを推進していきます。引き続き、利用者の安全性・快適性の向上と豊かな自然環境の保全との両立を図り、さらに地域に愛される森林づくりに取り組んでいきます。



ウッドチップ敷設



清掃ボランティア



国見山自然観察教育林の散策



オオウバユリ